寛永諸家譜

藤原氏辛二冊之内二

長家流

109

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186(109)
函號 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

那須　福原
子安　芦野
次藤　筑紫

寛永諸家系譜傳

藤原氏　章二

長家流

那須

大織冠十代

師輔

左大臣　正二位　贈太政大臣　正一位

早世　従一位　摂政関白　職を歴

九條右丞相　号

浅草文庫

兼家

摂政関白　太政大臣　従一位　法興院

小一条殿　又東三条殿と号す

道長

御堂関白

長家

中家定　権大納言　正二位　民部卿

御子左祖

通家

宮内卿系図ハ通を道と作

定　従五位下　母ハ従二位懐子

貞信

須藤権守

次郎 [illegible]

資通

須藤右郎

資満

須藤太郎

資清

須藤左史 下野守

資房

須藤次郎 次郎左衛門

宗資

資房嗣子 山内氏

家と号す

那須氏者所

資隆

形須太郎　小山某が女と聚る

之隆

森田太郎

泰隆

信久山次郎

幹隆

芋洲二郎

久隆

稲原冨郎

之隆

系図別子出る

三郎　与一資隆があとをつぐ

實隆

渋田六郎

滿隆

澤村七郎

義隆
豊田八郎
朝隆
萩田九郎
為隆
戸福寺十郎
坂野上山口と名ぜられ
宗隆

子一坂資隆とあり
八郎おしく扇の的をいるに動
黄ゝ
甫戸庄美濃
左田庄備中
伏見
即閑
又資隆長十二人あり九人を源氏と
うしき平家
為隆宗隆を

源氏ハ家ニ勢初ハ為隆ハ
判官義経ノ命ヲウケ小ちく
宗隆郎須の太賀と源氏一統
ノ後十人ニ信刀下宮小四郎
祐経ヲウケ国ニ四人
こノゆへ諏訪ヶ崎殺して
ものゝ明神ノ祠とする

房子

将軍源ノ頼朝の代ニ成ル鎌倉
糸詣ヶ崎ニ紀刀二藤ニ
死ス

資之

三郎 ちゞめ之隆となづ
ケ一資隆嗣子なきゆへ頼朝の
命ありておとゝ資隆が家督とす

頼資

肥前守

資之が養子となり 文亀元年郡司

某が子なり

頼勝より譜字を受け 頼資

之資

太郎 肥前守

頼勝形須野乃郷さき長命寺

ひゝく新鈴を いとゝみ給ふを

歌を

仮り頼勝より猶をあづけらる

息男女五人 女子一人 伊達氏某

妻

資長

伊予野次郎左衛門尉

朝資　荏原二郎
廣資　味岡四郎
資家　稲澤三郎
資氏　河田六郎
某

某　稲沢
　　矢田

資村　太郎　肥前守　島二人
資泉　右郎　加賀権守　清名月若

資忠

右郎　安藝守　息女人

資藤

右郎　備前守

將軍源義氏及直冬東寺合戦之時

戦死　母　為切腹

縄をかけ　戦功とすべし

息男女六人

妻

芦野

資世

右郎　越後守　清為兩雲

妻

金丸

某

南城

資氏

太郎　刑部太輔　清原瑞山

源今弥次郎　清原つさみ子

結城某が女と聖　男女子人　女子

一人南山某の嫁　一人白川某の

嫁

資之

太郎　越後守　清原好海

山内禅秀が女と聖

氏資

太郎　大膳大夫

白川某が女を聖　男女四人　女子

一人宇都宮明綱の嫁

明資

右京亮　肥前守　大膳大夫　法名

高嶽

資親

播磨守　大膳大夫　法名泰巖

明資嚴子なきゆへ資親をもて

家督をつぐ　実ハ明資が才なり

如子一人字彩子　実成綱子　嫁を

資彩

息二人

資重

次郎　法名玉岩

兄某早世をもつゆへ資彩

家督をしゆく

資相

太郎　越後守　法名蘿月

資實

太郎　伊豫守　法名傑山

長男女二人　男子一人　伊作氏義

嫁ス

資房

太郎　陸奥權太史

岩城常隆那須山田城ヲ攻ムル城郭

陸奥国ヲ治ム　敵兵退去

又縄釣ヲ市張シ相戦フ

東方大ニ勝利ヲ得ル

敵兵ヲ討捕死骸ヲ堀ニ

世人ヲ以テ伊豫ト

法名笑月源藤

朱

朱須民部

政資

右郎　高後守　長之人

法名雄山宗英

高資

右郎　法名天性慈舞

長正川　十月廿日　切腹家

後綱を討捕

資胤

次郎　法名高月

高資嗣子なりしかとも資胤を

て家督をつがしむ　実は高資

才なり　金津蓋氏　をもひ白川方

義親が女大将之子騎とひき

ひく小田倉と申す那須ハ
合戦ハ敵軍大ハやぶるのち
信濃義明と大海をひく合戦
ことなく敵共をうち捕
長男女子人 女子一人信濃義宗
嫁ス

資時
太郎

天正十二年三月廿日宇津宮
國綱二子ハ百騎をひきひく為
原ハ敵内ニ資時地ひく合戦を
ハ綱敗ハ引ひくゆとき
敵共をうち捕事ハ
すこ乃ゆ宇都宮弥三郎
彩山田宇津野 迫籠 警固 小城
ハ乃き
入

豊臣秀吉実亦馬乃介と迷糸
い[illegible]仕地を没収せ[illegible]
那須乃うらの[illegible]仕地を[illegible]原数村須
[illegible]一族郎人等或ハ
京秀吉[illegible]
東照大権現[illegible]祥場
受長七年
大権現清義憐を[illegible]貧賤
御兵法[illegible]候ず[illegible]何仕地加信[illegible]

同九年
大権現乃厳命と[illegible]
大脇大夫[illegible]何[illegible]年九歳
同年権現様変[illegible]
結城晴朝[illegible]
立十四歳[illegible]辛[illegible]
休山

東
牧野

資景

与一左京亮
享年十一年
大権現乃厳命と申て十二月二十又日左京亮
仕ぶ
世一業
息男女二人 女子長川太兵衛尊信
不嫁

資重

与一美濃守
寛永元年
台徳院殿乃御命と申て正月朔日
資重十二業乃ゆへ美濃守
仕ぶ

幕紋　黒一文字

諸道具衣服乃紋物内一文字

国立公文書館
National Archives of Japan

福原

長家九代

資隆

那須与市

はしめ小山朱と娶男子十一人

宇都宮朱と娶男子一人

久隆

四郎　子一宗隆が兄

とし　めく　福原と　頃と

資房

周防守　長男女七人

五郎　久隆が　嫡子四郎　久隆が　嫡子四郎　久隆

嗣子なきにて　福原乃家とつぐ

勇乃助　信乃丞　巖

資時

日向守

とし　めく　澤村と　頃と

資房が　二男なりしかば　嫡子早世

小弥太　福原乃家とつぐ　長男女六人

末子　矢田が　姪子なり

資義

修理亮　長男母　法名面空　九人

資徳

兵部大輔　法名道入　長男　二人

次男萩田彦三郎　法名郡中

資陳

民部少輔　法名梅香　母子　二人

三男彦五郎　伊豆野と称す

資常

越前守　長男母　八人

戦場にて討死　首級

法名蓮月

資益

安藝守　法名道伯　息男女五人

二男資元事国ノ殺子ニ成

資継

若狭守　息男女二人　法名徳菴

資英

外記　男子四人　法名雷称

資澄

摂河守　法名西菴

資衡

民部丞補

実ハ資澄ノ弟ニ資澄嗣子ニ成

ゆへ家督をつぐ　息男女六人　次男八益丸ノ

殺されし
五月女坂にて打ひしく那須と宇都
宮と合戦のとき因幡とられく
高名なり

資郡

九郎 弾正左衛門 那須資胤が子
とこなり 法名道安

資孝

孫太郎 安藤守 男子四人
実は田原備前守次男なり 資郡
が養子なり
天正十八年豊臣秀吉小田原氏直を
征伐のとき三度ともに
乃ち秀吉つれ戦場にて
あまたたび首級を氏郷を
あらいなく

法名宗存

資房

中務丞 法名月山

那須と宇津宮合戦乃ごき資房

ささきとともに数度

乃ぐみ首級を取軍功人すぐれ

資保

新右衛門 安藝守 男子四人

女子資孝が次男なり 資房早世し

嗣ぶきゆえ 家督をゆづる

寛長二年

永禄大権現 [illegible]

同五年上杉景勝逆心乃時

大権現乃厳命乃[illegible]

らんがため皆川山城守服部土佐と

打[illegible]ち 太田原城[illegible]

まもり聖年作作義宣　作ちて作國文精入ちき山城守に同じく
岩城にはきて城と清兵衛
相馬もちが不領を没せられ時
すぐに年越にいたりて
時もつるあやまりのきのもしき
所にきくめへれ田領を
しまへこんゆへ城をもつ
つ帰府しく

大橋現に帰国したまふ時
下野国小山小薬小松
領地をくけへしまへ
同十九年九月罪見安房守河改
為代わき作を叩ちの内藤右馬助
市田書市ちこ行ちる房州ちち
く城をうちちい城を破却を
同年大坂御陣ちち作渡守
組に引しに作をとつむ

賀一年五位の時 修理亮
須那清平 病を以て歳人
四十四歳 と云ふ 子孫首を
献じ奉りける
永和七年 書状を以て 寿平内膳正
寿木 寿命四十 りなり 左近将監
と申す
寛永十年十二月六十三歳にて
死す 法名道親

資盛

内記 法名 長男
二人
永和元年 資盛十二歳にて
白徳院殿 祥雲寺殿 父 資保病
用ゐ給ひ 資盛十六歳にて 法入
給ひ 修業 つとむる事 九年
同八年 伏見 院 修 を加へ
始め 杉平 冊後守 秋元但馬守

原しく豫州の書をつもうれ
ち清入道殿より作の写
あらくに小石川口の書とけも
寛永十二年日根野織部正野州
壬生を持て豊後の主府内
壬生城と信乃兵書も
翌年六月に以前書
忠秋に渡す

資敏
内記
寛永九年十二歳にて
将軍家に拝謁
家敏一文字

国立公文書館
National Archives of Japan

千本

長家九代

資隆

那須太郎　生國下野

為隆

戸福寺十郎　生國同前

年家追討乃時源義経へ志たがひく

讃州住人 義経に家
うしき信州 下京に住
うしろ之上野国下野那須郡
野と山口に所を作
こ号す
此間久しく引後

資持
常陸介 従下野

資家
武蔵国の
明應七年之月六日六十八歳にて
死す 法名蟠桃道根

資家
美濃守 従四位
大永元年四月廿八日 七十二歳にて
死す 法名恰雲長悦

資次

四郎左衛門尉 生國同所
天文十二年八月二日六十の歳にて
くれもて 法名 渓月善公

資俊

常陸介 生國同所
天正十三年十一月八日那須流村
小田原にて父子ともに殺害せり 六十七歳
法名 授翁持公

資政

十郎 生國同所
父資俊と同所にてくれもて 二十
の年 法名 花渓長秀

義政

大和守 生國河内の
形勢次第に嬙如を弱る
天正十七年月 秀吉義政の
礼謁をうき事を怨て領二十箇
村乃内二千二箇村を過三千百八十
貫地を没収せらる
同十八年秀吉相別小隙乃門族を
征伐すおもき父子ともに小田原
乃陣にあり
同年六月秀吉 本領七十村
を過て二千七十二箇乃米穀
を通とさづけ今にいたる
あり
文禄元年二月二日秀吉朝鮮
征伐乃ためにまた父子
乃別名護屋乃陣を

元和元年十月三日七十人歳ヲ
経て死ス　法名雲雷通頂

義宣

又七郎　元和守　生母同家
慶長四年三月十七日城ノ川佐竹
右京亮　右衛門督改ム養
者トス
東照大権現ノ御ニ

同日　七月奥州会津　京勝ガ おさ
同勝正長卿　下野國宇都
宮ヲ以テ　宇都宮
台徳院殿御勝物ト　京極ノ家
廟改　作ヲ
尊命ヲ
同年　月　二百万石ヲ北ヲ

同六年六月二十日奥州岩城箇
嶋乃住人高畠六郎兵衛尉
ゆき　信ゆきと　ゆき
家し　信濃　乃事をけとも
同年十一月二十四日千人百人
乃加信と　領ふく
同十九年八月内藤彦助政長卒多
出ゆき　忠朝　ゆき　家し　房乃

ゆきむき　沙汰乃事をあ
ら　破

同年十一月六坂清庫乃信ゆ
し　と　む
翌年三月大坂再庫乃ごき　卒多
信濃守正信が　紀ゆき　家し　河内國
須那　清ゆき　庫　明石の　押と　ゆき
為　武者を　討　捕　首級　六十八と　献じ
ふく　ゆき　し

元和四年八月城州伏見松丸大手
乃御普請をつとむ
同八年八月家臣源五郎をつかはし
本多上野介正純没収乃刻
作州におもむく永井右近大夫直勝
と共に城を預る
同九年御上洛乃供奉をつとむ
同年九月九日京都にて卒す
死去五十九歳
法名隆山宗徳

義昌

彦太郎　山城守　生国同前
茂木筑後守が嫡女をめとる
寛永六年二月二日初めて
大樹に謁し領地五百石をたまふ
しかれども中風のやまひあり
かりければ奉公をつとむる事かなはず
よって本多正信をもって此事を

言上し江戸にくだり時、
台徳院殿に拝謁し
同十九年元和元年大坂表
陣に供奉をつとめ高名と
いへども義昌病気にて
息男義等相続し義宣代く
つとめ

義等

忠二郎　大和守　出羽国
元和元年七歳にて酒井雅楽
忠世与井大炊助利勝女人を
もらう
台徳院殿にまみえたてまつる
同九年病にて相続義宣
ゆるされ侍従に任ず
侍従書号義等かたのゆるしを
し義宣に病死し義昌

京病ありてこゝ[illegible]事あり
つゞいて[illegible]当命と[illegible]
義宣が遺跡を嗣
寛永十年正月十六日江戸にて
病死せ歳廿六、法名関宗院
嗣子なきゆへ[illegible]遺跡断絶

義吉

又七郎　甲斐国同前
渡辺山城守が娘を聘す

元和八年四月二十三日酒井忠世
土井利勝両人と奏者にて
台徳院殿
将軍家へ拝謁
寛永八年六月廿四日杉平左衛門尉
信綱が組へ属し清水小姓組番
となる
同十年二月七日ゑぼし
とゝまる

同十四年十二月二十三日本領乃
うち八百俵ほん高
加増ぐわ
と申渡
家紋一文字

子孫

資家

美濃守

七十二歳にて死亡

法名長悦

長家

内蔵助

国立公文書館
National Archives of Japan

八十二歳にて死去　法名常貞

長次

大隅守

八十一歳にて死去　法名宗白

道長

松宅殿と号し

天正十八年豊臣秀吉小田原を

征伐の時相伴

同年秀吉より下野国宇都宮

大名津にて領地二百三十

石とぞ申し

豊臣三代

東照大権現に謁し奉る

同四年

台徳院殿と申し奉る

元和元年七月七日に死去

佐竹清宗

資勝

常刀

天正十四年道長ゆきゆへ
おくに家督をつぎしを義
福原異親守が二男なり
同十八年小田原へ参
道長と御小田原
参ると御

参長三年道長と御なくなり
大檜扇へ渡り給ひてまいる
同四年
台徳院殿を有
同六年景勝道心乃ゆき下野
國那須へ出原へ出川
山城守潜庵と形なり城参と
同六年佐竹京勝が押の元
同六年佐竹京勝代ときに

降庸と共城に籠り入寄
長門守清動乱をのがれて
牛越の城書を つくる此時
大權現 加信山 下野の内
高根澤村七井村宮下村二ケ所の
二百五十石を領ス
同十九年 星見安房守 欠國の時
内藤左馬助 改号 安房守
乃書 同 安房刑

同年大坂清 陣乃ち 佐竹と
同 盟 乃清 陣 小田原 御
時 組以 下 佐竹守正信 乃
元和 年 清 入 治 ちこ 奉
下 内乃 刑 後河乃味 書 ス
寛永七年 二十七歳 死ス
法名 宗猪

長勝

清兵衛

元和七年十二月廿六日

台徳院殿

将軍家ヘ謁し奉る

寛永三年清兵衛

留守乃御番ヲ仰せつけられ

同十一年御入国のとき江戸留

乃番を仰せつけ

家紋一文字　左巴

国立公文書館
National Archives of Japan

葦野

興一家隆成

資忠

安藝守

資方

日向守　そゞめく苦野と称す

法名尊山

資親

豊前守　法名高天

親高

伯耆守　法名宗松

資賢

飛前守　法名立篤

賢宣

飛中守　法名掛室

宣實

大和守　法名妙挑

實迎

大和守　法名秀蘭

資孝

日向守　法名義林

資春

後堀守　法名月山

春親

後奈守　法名東明

親方

伯耆守　法名冥宗

親正

安藝守　法名香林

資真

大和守　法名道見

資真幼ウシテ太田道灌ノ軍法ヲ
一流ヲ傳授ス事年ヲヘテ此時
道灌ノ軍法ヲ習ヒ人ヲシテ
知ラシムルニ足ル程ノ秘密ヲ悉
サレド資真横年道灌ノ第ノ
いくつわものとくに足ル程ノ秘
密ヲ授ケ戦場ノ事ヲ教ヘ
勝利ヲ得ズ
ヲ授ケテ

人ヲシテ武勇タラシムル事
傳ヘ道ヲ心ヲ
曰ク禁中ニ
其和哥ヲ詠ジ
後柏原院御製ノ和歌一首ヲ資真
ヒタマハル
あづさ弓はるたちかへる春の
行ちらふ和哥ノうらこと

資豊

日向守 法名玄勝
那須資孰が男那須資晴が外祖父
なり 依作義宣ハ資豊が外孫聟
なり

天文十七年九月二十七日那須
玄資と宇都宮後堀四月廿日
とゝ〳〵お義河資豊法軍を移揮
志〳〵古将後堀が首をきり敵二子
余人と討捕勝利をうる
越後乃輝虎ハ刑部乃丞入乃ゝき
源義氏資豊をゝのまんごゝめり
自書と たまはる 二ま資豊年廿
武功ハ かましあるゆへなり

資泰

大和守 ゝ休斎 ゝ号

天文二十一年資泰二十二歳ニ成
白川乃城ニ城門乃内ニ籠
つ書ニ和知已下六七人と討捕
白川乃玄蕃を燒白川乃城主義親
ハ切腹ス石井川と
ハ作こ乃和知
二箇所とハ資泰作作ハ
ハ白川ハ作ハ好ハ
俣と伏うしを結資泰こうしと屑と
せぐ有ひ射こう結しハ

討捕作ハ郡の堺を障碍して
ちづきこうず資泰凱歌とあげく
の為ハ
永禄四年那須資胤白川城を
義親と小田倉原ハ出ハ義
乃とさ会津蘆氏義親ハ力と
あらすいで資胤一戦して
勝利ハ出ハ資泰諸軍を
さ引くゆ

天正十三年三月二十八日那須資晴
宇都宮國綱と薄葉乃原にて
合戦乃ときに敵二千三ケ所に陣を取
資泰諸軍を率ひ攻戦大勝
ありしかとも恐事なきあたはす
勝に乗軍なりとて嫡子豊泰を
先陣として相戦敵三百騎ばかり討
捕これ有り殘党敗北し大勝を得
て資泰諸軍を指揮

すなわち
文禄三年十二月廿日に死去歳
六十六 法名紙安

豊泰
日向守 弾正少弼 毒ハ大宮道打
女那須資晴と宇都宮国綱戦乃
原にて合戦乃ときに豊泰
敵三百騎ばかり討捕

天正十六年七月八日那須資晴
塙右衛守が居城をせめるとき
城中より敵三百餘出くるを防と
雲泰方陣しく敵を追ひ
城中へ攻入る共門やぐらの時
雲泰家人に謂くいく伊王野我
父の敵なれば力ばさげんや
とて後城へ出い鉄炮をもつて
伊王野の城へ又右衛門とうち出

ぼる帰陣

天正十八年豊臣秀吉実京市陣
の時き那須小田原へ参ひ
くまゝ雲泰うたとき
出て日向守任ぜらる
同十九年秀吉奥州へ数向の時
雲泰葦野へ来る秀吉
茶屋をもつて
小茶と献し共諸軍勢へ赤飯を
たく秀吉たれと感たく勝刀弓へ

黄金を高麗に秀吉薨去ありしを
孫六郎刀を佐竹へいまゝ不拘を
慶長四年二月四日小死を歳四十
四 佐竹道珊

政泰

佐竹道悟
慶長四年父盛泰死を此時政泰
八歳にして家督をつぎ侯しを

京極秀頼にまみゆ先宮ハ浅野
弾正少弼なり
同八年江戸にて中納言
が先宮をもつて
東照大権現に謁し奉る
又時佐竹前にて
名を賜ふ
同年長尾京勝逆心の時政泰
大権現に佐竹に心をそなへ

いめ田と人質とし召て敵の
葦壁乃城を攻ましかは元し京勝領地
と芦壁ちかき中ゆ
大橋現来地と名付ちかく
乃六百石地を領し是京勝道人
かきりつゝ境乃地とまもりゆ
同六年伊達政宗と
伊豆壁某と作付山城乃城番と
けりとも

資泰

民部少輔
寄長十六年政泰死去資泰
名徳院殿乃厳命とかつ父乃家督
とつぐこの家家系乃古刀
を献じ奉りし古刀伝来
正信これを模造
同十九年九月星見氏岡玉光時

房州より切腹し内藤彦助が組
に諸事乃指とつとむ
同年大坂陣に伊達政宗
大坂表陣乃ときゝ須那乃者を
ひきゐ人の首二十餘と討捕幕
下に献じ
元和二年陣入洛乃ときゝ伊奉
とゝ
同三年陣入洛乃伊達と
還陣乃時 約束乃如く秋元但馬守
が組に成し 後河乃城番とつとむ
同七年八月より翌年八月乃
いとまを大坂城番とつとめ
此時乃番頭松平内膳正家乃者
なり
同九年陣
入洛北伊達
寛永三年 陣乃ときゝ那須
堂ハ宮陣城乃留守とつとむ

同十一年

将軍家治入治乃時江戸浜川書と
つとむ芳数度治等書仮等と勅

幕紋一文字

須藤

●寛永

地蔵坂迄と号す生國相模
小保氏廉
天正二年六十歳にて死す
法名法蔵

盛良

地左衛門尉 [illegible] 生國

同家

氏康 氏政 氏直 [illegible]

[illegible] 七十二歲 [illegible]

死 法名 京蓮

盛勝

地左衛門尉 生國同家

氏政 氏直 [illegible] 親事

[illegible]

天正十八年 相州小累陣 [illegible]

氏直安堵を盛勝 [illegible]

[illegible] 諸方 [illegible]

[illegible] 軍功 [illegible]

同年小田原没落のはゝ [illegible]

[illegible] 賊 [illegible]

爰に本多上野介をもつて
東照大権現よりめし出されたる
累代遺跡乃地としまへ
関原陣大坂東御陣の御供をつ
とむるものは
台徳院殿
将軍家よりつかへまつりける

霊廣

孫四郎　生国同前
慶長七年十六歳にしてめし
いださる
大権現
台徳院殿よりつかへまつり
清馬とあらためける
寛永五年四十一歳にして死去
法名浄信

聖政

太閤秀吉公孫河

之和十年十一月八日世一歳ニ

將軍家ニ仕ヘ奉リ

聖右

孫四郎 生國武蔵

寛永九年十一歳ニシテ

右院殿ヘ御拜謁

翌年

父聖廣ノ家督ヲ継ク

家紋 未凡

国立公文書館
National Archives of Japan

絶業

今按ずるに太宰少貳資頼、秀郷
乃苗裔なり。小野篁が舊傳
を考へ合て、大納言
篁が末葉、くらく家傳にくらく
長家と、何くの程とまぎれ
いづれも事と

国立公文書館
National Archives of Japan

大織冠十二代

道長

摂政関白左政大臣

長家

侍従左大納言

長頼

尾張守　武藤と号す

頼氏

武藤若狭守

頼家

頼兼

頼平

大蔵大輔　侍従と号す

資頼

大宰少貳　従五位下　生國播磨

源頼朝卿代建久二年従五位下

大宰府守護

嘉禄元年大宰少貳任

同四年大宰少貳

従五位下

資経

筑前守　豊前守　従五位恵

経資

大宰少貳　従五位下恵

豊経

大宰少貳　従五位下恵

為資

左宰相の貳　法名西覺

貞經

左宰相中貳　法名妙惠

頼尚

左宰相の貳後の位下

野馬台流の貳と号するもの十世

みな以絶するなり

資法

伯耆權守　法名宗賢

武資

河内守

貞法

武藤　但馬權守

法名善章

組稔

左衛門尉 清原義[illegible]

組重

武藤義人 清原[illegible]

尚重

刑部少輔 清原元[illegible]

尚門

下野守

[illegible]郡[illegible]村[illegible]

[illegible]郡[illegible]

秀門

下野守

海門

[illegible]守

正門

上野介　生国肥前

[illegible]

惟門

下野守　二十七歳[illegible]

廣門

上野介　後[illegible]

元和九[illegible]月廿二日六十八歳

[illegible]　[illegible]山夢菴

廣門

[illegible]八幡成[illegible]

[illegible]四年[illegible]立信下[illegible]

信門

右近

大坂陣[illegible]

東照大權現[illegible]

家紋寄懸

源八幡太郎義家[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan